有栖川宮御家記

戊辰七月八月

十一

内閣文庫
和書 類
三一四九三 號
一四 冊
（六三函）一一四 架

内閣文庫
番號 和 31493
冊數 14（11）
函號 163 174

史 一一八

綴じ部（喉部分）の文字など開きが不鮮明な箇所あり

国立公文書館
National Archives of Japan

明治元年戊辰七月八月

日記

一 七月朔　天晴　　晨正

一 今日日蝕当西日刻ヨリ未刻迄止ル
但兼日届置候事

一 穂波三位殿　出迎　山本吉人
御用二付出頭候

一 御着料金子五両進ス

一 此程御届申出候処御敷被進候
但穂波殿家人致参上候事

一 午後
出仕如左

一 父半之丞頭ハ元和年中御判 辛未年代々周防殿
儀其年十日 暇半三ヶ月 京都江罷登リ着
暇ニ付 罷帰候様 依而 御暇被下候而
七ツ石　　萬事精出相勤候様
御家中頭中

一 口人　右者御定　山本五人
右五人与頭 辛未年仕置候
一 仁和寺ニ而御用 能大工仁兵衛
右之通差出申候
以上　御奉行 大喜 堀甚左衛門

一 二日　是迄
一 毎年正月廿八日振舞被仰付候
千種殿御勝手 御手伝被仰付
此方御領分 御手伝申上 此書
候ニ付 右之趣 相勤申上
一 穂之事 此方ゟ尾張三郎兵衛 御持参
被成候 右之通 申上候
以上　吉田 御奉行
御祝　関屋章輔

堀　出雲守　同上 増山対馬守

西丸若年寄　西尾隠岐守

酒井石見守　板倉摂津守

水野出羽守　牧野備後守

同上 遠山左衛門　同上 安藤対馬守

一 毎年遠在所之　御朱印　山本小兵衛

御使者之儀　小姓組之衆　番頭

小十人頭　御目付之衆之

菅沼治部之儀　仰渡之

一 西丸御留守居　菅沼近江守殿　被仰渡

明和四年

七月廿日

一 毎年御役所

若年寄

使番

菅沼治部左衛門

雅楽頭殿

父玄蕃頭　明和四年隠居

隠居　五十石

十二月

菅沼織部　家督

七月廿日

吉岡　御用　被仰付候

一 金銀出入 従政所 中程 出ル
銭二千九百四十四貫三百三十貫文
代金五百三十三両三分ト四百四十貫文
一 吉田陸奥守殿御徒頭中雑用 差上之品
私之分御用役御徒目付衆江
一 毛利陸奥守殿より差上
時分柄為御見舞御進物
一 西丸御普請 出来 長屋門
林大学頭御附中雑用
一 無之 御用 日誌 第卅 第卅一 御用
一 江城日誌 第八 第九 御用
別本 御用
一 吉川より差上
書写山 代 寺 量院
安 院
一 巡見料 差上之
中田織部殿
一 越前殿 御陸奥守 殿 差上
六月廿八日

一 二日　晴

一 参上　大給縫殿頭

今度願之通無滞御譲被仰付候ニ付　以使者御目見
御口上被申上候　御菓子被下之

菓子被下之
青山大膳亮

一 御出ニ付　大膳亮
附添人

一 御対面　千宗室

願之通無滞御譲被仰付候ニ付　以使者御礼申上ル
御口上被申上候　御菓子被下之

一 松平大膳大夫

使者　某

一 御出ニ付御対面　御菓子被下之　千宗室

御礼申上ル

一 加賀中納言　使者　奥村

一 松平土佐守　使者　某

上ル

一 本多佐渡守　使者

一 御目見　御礼申上ル

一 何某　参上

一 橋本某

一 大織冠鎌足公　御実父　大田右衛門
　是ハ先年大職冠御本尊御掛物ニ而御座候
　以前被致候処ニ而御見届置候　仍而
　御預ケ被　仰付候

一 十六羅漢像　壱幅　信楽寺
　鎮守之掛物ニ御座候
　　掛物壱幅　林右衛門所持之由申出候
　　　右ハ大磯村之者之由申出候　御改置候

一 古硯壱面　右之通
　寄附之物ニ御座候

一 施餓鬼旗　壱流　盂蘭盆御施
　餓鬼執行之節用之、信楽寺ニ而御座候
　右之通御座候
　　但信楽寺住職之節一人ニ而所持之由申候
　　　寛永年中ニ而御座候

一 武蔵国多摩郡
　大橋村
　　右ニ付
　若年寄之内御改之節勤年寄共御届申上候

一 銀七枚　　御施餓鬼料
一 同弐枚　　御施餓鬼料
　右者御寄附ニ而證文差出候由申之候
　出来

一 武蔵国多摩郡　武蔵国多摩郡
　手向之節可被仰付候

廿日　晴

一 毎年之通鶴拝領出鴻巣鶴御拝領ニ付献上
此度右之通ニ付、中々御目見之
一 御鷹場之儀ニ付、御使者ヲ以、右被仰付、今日献上
一 当日御出座、御目見被仰付
一 無之御用、御届
一 御用番御老中様御役所ニ而御達之旨

一 当日御礼出仕、御目見之面々
一 尾張殿・紀伊殿・水戸殿中将殿御名代　石川右京亮
早々出仕、御目見
海老名……
一 御遠慮
中々之通
一 御老中様御役人衆、御目見　山本右京之亮
被仰付　御使
一 御用番
出雲守殿
松平大膳大夫
稲葉丹後守
出雲守様御用番

一　出来高之事　筑後屋　山本□実

千石　長延

毎年御定之外　出役　山本吉人

高五百五十石　上ヶ米　高二石　能登

但当濃免　四石　折　壱両　三分

百姓川之家領村々　振

山城国葛野郡太秦村之内

弐千石

内

一　三百三拾五石八斗六升三合　安倍□□村

内　六石六斗六升　三合　□□□□

残り

三百弐拾九石三斗八升

此米成

弐百四拾石九斗壱合六勺　但し　三ツ弐分

内

六百六拾四石四斗二升七合　右□□村

此米成

三百三拾八石七斗九合四勺七才　但　五ツ壱分

合米成

五百四拾弐石八斗壱合四勺七才

右之通無相違候

首藤助右衛門

中川総兵衛

七月廿日

無年

御役所

右者[illegible]年

一 冬至

下宿

松浦越前守

右者上京ニ付[illegible]國[illegible]

[illegible]

一 冬至上法

[illegible]

一 〃 出雲[illegible]

[illegible]

一 〃 出雲[illegible]大社

[illegible]

一 [illegible]年

[illegible]

六日　長延

一　御側衆備中守三人・御側衆八人長崎奉
　　めし出、於御座之間御例
　　手続奉上　　三千石高格　石河靭負

一　右者御鏡人願之通
　　相勤候　山本高御封御屋敷被仰付

一　元御広敷番頭御組頭御番衆被仰付
　　家来之者月日相勤候ニ付御取上遠慮
　　　　　　　　　　　無役寄合
　　願之通御鏡人仕　　　　森村源兵衛

　　目付御組頭御番衆兼被仰付
　　中山平勘度　御番衆
　　　　出之字高之堅
　　無足之者　御役
　　古役之者写取立御前ニ而上御前ニ而日
　　　　上御目見
　　右之者　出之二国廣大坂衆
　　　　　　　　備後　山本　実
　　右之者御鏡人
　　　御鏡奉上　　　　森村源兵衛

七日　晴天　巳正

七ツ御武館御座所中　相済
御日録写込有之

琉球人御目見　御安　紀伊守
当日御奏者之通之渡之通館御役一来
御入来文被申上
奉　勘定奉行度

美濃守　同　同　人
御老中より当日御扣被申上

右当日御成　同　長村内蔵
同上　右当御方　出座御方より被申上
御供

奉書之目録勘定御物頭調印
め例年

右当御方御上山御成　御出座
御老中御座之　右席　硯箱
御硯箱調御札被申上

右当御方　長　以出座被申上
御息所　目録　被申上

一 清水御用人ゟ御目付　長谷川勘之丞
同組ゟ御目付
　呉村大膳　　徳川朝臣　　小出　吉京
一 當日御番頭ゟ右
　山隠居之事
　果　隠居度　〃　　安
　　　　　　　　　　堀田伊予守
　　　　　　　　　　佐藤縫殿
大番頭隠居度　　　　松岡喜兵衛
　　　　　　　　　　山口主膳
一 臨時見聞　　　　　　近
　隠居隠居度

一 大番隠居度　　　佐野將監
一 西丸御旗奉行度　御役
　當日御役頭　御番上之　相馬中務少輔
　御番頭　御役　御番上之
一 大坂御留守居御番頭　御役武賀之節御編
　　　御役　　御番上　延
　　　依之御封地御役御番頭
一 中山御役度　御役
　　御書院番頭
一 御先手弓頭度　　　　　　山岡　五
　御鉄炮方　　　　　　　　　杜　　清
　　　　　　　　　　　　　　吉岡伴之丞
　　　御役　　　　　　　安

就中遊め度

屋代越中守

稲葉丹後守

菅沼左京亮

酒井大和守

酒井修理大夫

曽我丹波守

小普請

松平主殿

溝口讃岐守

細川越中守

田中伊織

竹腰山城守

成瀬隼人正

菅沼左近将監

松浦越前守

曽我縫殿助

内藤惣左衛門

菅沼右兵衛

本多一学

戸沢采女正

中山出羽守

岩田姫

西尾将監

松平深見

秦主馬

岩佐八郎

上田縫殿

大岡越前守

上田主膳

吉田帯刀

稲葉若狭守

大久保数馬

牧織部

岩瀬主水

上田伊左衛門

南部

松村伝次郎

小寺上

坂本主計

平岡主殿

一東本願寺　安居　中村殿迄
出入之儀是迄之通申来候処中納言様御同然之事
西本願寺御本山ニ付　猶又是迄之通可相心得之事
是迄之通ニ而御用之節ハ申出候事
知恩院役所
青蓮院
一右同上
常安院出入之儀是迄之通相心得候様申付候
御祈祷之儀明日出勤之儀是迄之通申上候
此度御用之儀ニ付相願候ニ付是迄之通
此度出勤申上候
毎年春御用ニ付御繁忙之儀ハ
二月中御休息之節ニ相成候事

一右御届之旨
中納言様御祈祷ニ付上申候
御内意之趣申上候
御出入之儀是迄之通
上之儀是迄之通申上候
猶又是迄之通上申例之通
右之上
一右御届之事
常例
常安院御祈祷相勤候事
周防
御側役
杜本

八日　長延

一　参上　本庄安芸守

少館へ被入候ニ色々被仰付　山本ニ而御対面

御口上被仰聞候ニ付　少輔ニ上ヶ遣ス　被成御盃

草津ニ而被下候　越前守　御礼申上ル

一　同家ニ参上ス　高瀬筑後守　草津ニ而被下候

一　吉野殿ニ而御目見仕候　杉村伝兵衛

但シ元ノ口御館へ御帰リ之

一　東野守居宅へ至　使　六角殿より

是ハ殿より口上　御使者　御目見仕候　細川越後

[illegible]

一　武者小路殿　ヘ　田中将監

一　吉田殿御使ニ而書状到来　住吉殿へ使　信濃守より

御使　ニ而

一　中山殿　ヘ　西尾安治

口上　御口上ニ而被申上候

御書付被下之

一　吉田陰之介、　御使番　岸津新兵衛

奏者　石川[illegible]守

一 右自是御館へ御見舞所司代被[illegible]旨申来
其外御使者相越申上ル
御奏者　堀本[illegible]守
西丸大御所御前へ　出御　山本[illegible]人
明日老中より来翌日者松平[illegible]守
御海道之御内ニ御使者松平[illegible]殿
大奥女中御機嫌伺ハ　[illegible]
一 右自是御機嫌伺使者[illegible]
御頼[illegible]右之通

九日　晴

大樹公御機嫌度　被仰来
時候御機嫌伺之御使[illegible]　勤番被申上
[illegible]御内[illegible]
林大学頭　[illegible]
御役[illegible]
[illegible]
[illegible]

一
一

しかるへし　[illegible]
いかにも[illegible]　御[illegible]へし
め[illegible]へ[illegible]
めてたく　御文　津田[illegible]
御はなし[illegible]
毎年[illegible]
古[illegible]日記　第廿三　第廿五
江戸日記　第八十　第五十三

一
一
一

[illegible]色
[illegible]色々[illegible]申上候
御[illegible]
武[illegible]又　[illegible]一通
川[illegible]中　御[illegible]又
古[illegible]の[illegible]　に　[illegible]
[illegible]御[illegible]拝[illegible]又
東[illegible]新[illegible]　出　松田[illegible]
[illegible]の[illegible]御[illegible]
一[illegible]の段　御[illegible]中御[illegible]

中ニ有之

一 江戸府ゟ申来候文言大坂表留守居
時服拝領其外之儀申来候文
別紙
一 今廿八日別紙之通ニ而 御渡申
相済候旨三條殿ゟ申達ニ付中ニ付候ニ付
右様之儀ニ付 以後御留置候
取計ニ候
一 別紙之通ニ而 右者 其外御家来人
供養人数之儀 相済者其成
以書面御談判被成下候事

何分之儀ハ江戸表ニ而御指図有之候ハヽ可相成
大坂ニ而之儀ニ付其成候迄如何安心細ニ
言上可申上候
大総督宮御陣營ニ而御滞陣ニ付
追々被上御指図有之候ニ付被
思召候 奥羽大抵平定迄ハ御
滞府之軍勢御指揮可被為在
御沙汰之旨轉相成候ニ付御達有之
事
右之通御達之

同年十二月廿日岩倉英大使ノ治罪同船ヲ以ゝ
附 於 朝廷ヨリ御律并ニ被仰ニ出候
男女ヲ 御処刑被致 大隈参議 ヲ
左ノ者共申合之 数艘ヲ以テ二隊ニ而
一同品川湊ヨリ速ニ御用向 御付 相廻ス
被仰候 依而 寺社奉行ノ手中

法華宗 壱人 南蛮人 壱人
真言宗 同人 医師 壱人
小頭 二人 下部 百人
陸奉人

右ノ御供ノ内 浦賀ニ而 悉皆 御用向

一 之江城之事

右年十二月 御側用人列ノ
取計 此節之者

浮殿守 武部殿 大藤殿
松浦主膳 池田良親 林寺之丞
岩井小之進 飯田左馬 井上主馬
森田徳蔵
加藤采女守 長谷川周 山崎源之丞
奥野兵衛 三好三郎 井上山三郎
大河内清 松本乾三 田中治兵衛
松平源吉 魚住孫兵 佐藤安左衛門

吉住小三郎　市之丞　吉住藤馬　利之丞
新助
下部小使兵
合三十五人
公事頭取并組頭
鎌田半人　山崎吉兵衛　安藤道寿
三宅大七　鎌田吉平　広瀬伊平次
十五生
田口織　田中貞記　三輪甚之丞
三輪三郎　山崎栄吉　甘藤来甫
奥渡〻下
安藤治郎　合格吉　[illegible]　兵助

七之助　渡辺〻
右之外目付衆之残帳之事
ア掛上下〻頭共二十七人
稲田廣之助之分
高須例吉之丞　富永藤次郎　高田小三郎
池田仙吉郎　合吉勝之丞　三宅伝蔵
三須鎌次郎　富永勇之丞　宮井作之丞
菅谷隊之人之分
大河内西之丞　吉田吉之郎　浅田金之人
佐藤恭連雄　下役鈴木　伴林　[illegible]
若中年寄井之龍之丞

十日　長也

一 長崎奉行去度巳刻ゟ年上
山下ゟ御対面御目録被下候旨
同断之節為御礼登城候ニ付奉書御老中連名
至其上御座之間江被罷出候　〔朱〕役段　五手物被
御勘定所之者石種御召出被渡之　両判
候通被

一 山下ゟ御対面一時ニ被成
素彦様御目録　然ル　渡辺素彦

楫取素彦

一 今般之者会計ノ人ニ付料理被付
三十五年渡辺被下候ニ付御酒被下之
御酒被下之

一 同人
菓子折差出ス　出来之　楫取素彦
右[illegible]差出ス

一 兵隊并布告
[illegible]　例之通[illegible]

一　加賀宰相中将殿　使者　[illegible]
此度中納言殿御所労ニ付為伺御機嫌差上之
一　長崎　三井[illegible]十七日
七ツ時御使者を以御機嫌伺被差上
一　[illegible]　使者　[illegible]
一　[illegible]
[illegible]
一　[illegible]
出[illegible]
[illegible]
[illegible]

十一日　[illegible]
一　[illegible]
[illegible]　使者
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 廿日勘定所渡度

一 穂波之渡度　条々
右之通御書付之内御渡候ニ付上ケ置候
箪笥ニ入置へし
右者隠岐守殿ゟ被仰渡　御国絵図方
一 条々
右之通御書付御渡被成候ニ付箪笥ニ入置へし

一 長崎之事書度　奉行　神尾備前守
箪笥ニ入置
明日条々上ル
右之節御書付被仰渡候
十日 [illegible]

一 庄田国度　　奉行
侍従二年十二月[illegible]上ル
[illegible]
[illegible]

一 常陸国度、　[illegible]　大[illegible]
[illegible]

一 美濃国度　　[illegible]
[illegible]
[illegible]　人

条々
[illegible]
[illegible]
藤井[illegible]

日
一 今日御能拝見被仰付候ニ付　同心組頭　笠原次郎也
一 大目付御渡　御渡　山中吉人
　御宗門改御封中之儀
一 右之外ニ而御書付御渡之事

十二日　晴
一 林中務　若年寄　御用番　甲斐雅楽
　御封付御渡之　歩行
　御目付　歩行　御書付中渡　若年寄
一 御目付衆□御渡之由ニ而御渡之事
一 三田中務御渡　安藤　山田本丸
一 寺社奉行若年寄御渡　歩行　日　松尾主記

一 足軽　頭尾
中之間御頭衆迄數
一 毎ゝ節會
于御供衆勤之　御ハしめ御目見
出座之時度　出仕
御葬　渡菜三番迄
一 時之御用御目見之
古来
葬式之日度　日
但一度え相渡度下座衆日々相勤
一 ゝ年ゝ之御謡初之北主殿頭之
御年之年
一 毎年節會之を　御能之若干
常月見ニ　加茂之下之者
川崎之　渡之年
七ゝ
一 例之之御目見之
頼古之度　用人　三輪[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
一 年之
出奔之[illegible]

一 御寺御料金四千疋
御寺料 金弐千疋
右者今般観翫之御寺古跡ニ付
御菩提所ニ付左之通被下置候
右銀子之儀ハ一統ニ付金子拝借
御領分之儀ニ付広島表ゟ御渡候ニ付
右被仰付候事

一 長崎奉行衆え 御達 御目付衆
右ハ長崎奉行被仰渡候ニ付 御封書を以御達之
思召候ニ付御渡被仰付候処
被仰付候事

一 穂波三位殿之口 為御内
此度御用向ニ付御拝借被仰付
被仰付候事

一 飛騨国 口 右之国之守
大須賀与左衛門殿御預所十九ヶ村北
村之儀御預ケ被仰付右上之通
御手当被仰付候事

十三日　晴

一 西御丸御納戸頭　安藤　吉田久右衛門
　指替
　中奥御小性御役御免　寄合

一 尾張殿御用掛り候　同　西川吉兵衛
　御広敷御用達ニ付御勤中之通被仰付　同日
　御納戸頭御用候ニ付信濃守殿被仰付候

一 阿波守御納戸頭　同　林　鶴之
　右ハ比宮様御附御用并右之通被仰付

一 信濃守殿御達ニ付申上ル

一 吉田應御役之　同　三村半兵衛
　吉田中番御小性組被仰付上

一 右相済候　同　岡田藏人
　上原信濃守殿中奥番組松風御殿
　御取扱之上被仰信濃守様

一 雑事方御合之通
　右之事之　五百石　加増被仰付
　何事無之
　七月

一　かつて
日誌　自巳三年至三十六　合三冊

一　右御用之御書付写ニ付申上候
是迄　上書　石川若狭守
御勘定奉行　御勘定吟味役　織部嫌
右之趣ー

一　長崎奉行　山田右衛門
一橋殿　三輪市之丞
一　三宅右京亮
出羽太守殿
堀川田左衛門

一　同處　亀山右京亮
出雲武蔵左衛門
高麗山事代　小林織部
一　田中兵吉
御書付之通
太田備中守殿御下知　林若狭守
是迄之通御館之儀御沙汰之上致承知候
右御書付取計方之儀御掛之者江申渡候
猶以遂吟味此度
相済候儀ニ付　御勘定奉行
右等之趣御同人御申達候

一 十四日　紀伊守

一 雅楽頭　讃岐守　相模守　中務大輔
御側衆中並ニ御小姓衆
御奏者番大目付御目付中　林中ニ参
御目見之節え出る

一 妙法院宮
　御使　　　　安芸
　　　　　　　　　　[illegible]

一 右
　御礼　　　　[illegible]
右中務大輔宅ニ而中大夫へ相渡之

一 御暇拝領　　　　御[illegible]
右相模守宅ニ而中大夫へ相渡之
[illegible]

一 一色丹後守　　下野守
　　　　　　　　　阿蘇[illegible]

一 右ニ付[illegible]御[illegible]
相渡[illegible]
御[illegible]

一 [illegible]　　尾張[illegible]

一 [illegible]　　[illegible]

一 無事ニ而会壱通　長細ニ而能
例之通り之事
一 能遊候　出来　山本長八
古之御一ノ膳無御座候　御書付ニ相成
勝手ニ而如此之
下膳無御座候
鶴御料三ツ
一 右之上　出火
一 入夜 尾州
出火之義ニ付若君様
出来
石川主殿頭

十五日　勢州　昌運
一 火元之義ニ付若君方ニ而御役方之義乞上候
一 榊原越中守殿出火　昌運
一 中務少輔殿ニ而当月中御役御免ニ而御役替
一 御成之事
御役義ニ付
来年御申之御沙汰無之候

一 美濃守殿　　　　　　丈
山崎屋より　当番御納戸
被仰付
一 大久保　　口
中務大輔　山崎屋御用当番御納戸
一 被仰付
宮崎甚兵衛　御用番之御納戸
小納戸被仰付
御用番　長崎奉行
山崎屋甚兵衛　支配

一 御目附　中川飛騨守　支配　長崎奉行
被仰付　御用　中支
一 中川飛騨守　支配　　鵜殿十郎　出雲守
佐和山　　　支　木村　　　
鵜殿　　　　　之　青山　　　
大嶋　　　　　　一柳　　　
大久保　　　　　　　松平　　　
中川　　　　　　　　上田　　　

一　つゝ之
明寺隠居方
本願寺門主
本願寺興正寺
佛光寺門主
專修寺門主
大谷隠居方之
随自隠居准后殿
冥隠居殿
廣橋大納言殿

以上

吉成寺
中村喜左衛門
横田　隠岐
高倉　兵部
長谷川兵部
大河　雅楽
佐藤　将曹
山口主殿
朱宮　織部
藤田五兵衛

指轄　吉左衛門
勧修寺中納言殿　桂　帯刀
庭田隠居中納言殿　竹内　右近
長谷宰相殿　庭田中務
此外御門跡方之雑掌方指導
日野殿方御隠居殿　源播磨守
久世隠居宰相殿　大久保　中務
此外雑掌　五百疋
右之雑掌へ　五百疋
以上　下書
菅沼主膳正殿
中村五左衛門
下書
隠居方之忠ニ而

一 年頭之御禮

隣国守護 出陸奥守 出羽 ハ不及

上杉越後守 越中守 深堀

日光 安芸守 丹後守

播磨 讃岐 因幡 伯耆守

備中 備後 一手 對馬守

一 信州之上

中之御年頭之御用人 出雲守 丹波守

越前御使者 □ 堀尾 □ 松平

御使番 □ 生駒 □ 田中

御□之國別 又 古那 中 □

林 若狭守

一 御朔日

七月廿日

従将軍中 三人被相越候ハゝ

右之通者共江御達被仰付

御封國ニ付ニ而 各御用候

御 □ 而 越 □ 申候

毎年 年頭 如例

日本より三年 欤

御国ニ 候 ... 欤

御 の ...

七月十五日 や

還幸之上刻出御同下刻御着之処
刻限御機嫌克御出輦之上ニ候也

来ル十一日　加茂下上社　行幸供奉之

供奉之事

但寅上刻参内之事ニ候
階下ニ鞍鐙御用意ニ付参候事
是ゟ上之輩ハ半ニ騎馬ニ被仰出候
右之趣清ニ　供之輩節ハ右鞍鐙持参

但　相應前後

出御之刻御出輦之事

前駆ハ　御書付ニ而被仰出候也

御道筋

清和院御門ゟ廣小路御車道通北ヘ出町
椥辻ゟ御順路下鴨社　御社ゟ西鳥居
通リ西ヘ鞍馬口西ヘ西ヘ土手通北ヘ新町口
中立賣町北ヘ椥通リ西ヘ御順路
上賀茂社　御社ゟ還　幸上賀茂ゟ
元御順路出ヘ西ヘ南ヘ鞍馬口西ヘ西ヘ寺町ヘ
南ヘ清和院御門

一 右

一 官公卿諸家衣躰直垂之事 騎馬

一 供 侍四人
口付弐人
但 別ニ下部弐人之事

一 地下ノ輩衣躰直垂之事

一 供 侍弐人
下部壱人

一 官公卿諸家官人之召連候供侍衣躰羽織袴之事

一 夜陰挑灯 袖摺弐ツ 小丸弐ツ
馬挑灯壱ツ

一 雨儀之節ハ主従蓑笠之事

一 供之者ハ主従共辨當用意之事

一 胴乗用意之儀ハ可為随事

一 右一紙

古轍之經緯
御經
供奉掛

一音
二音

御出輦　三音

御道筋

御止　一音

御進　二音

一 供奉之面々當朝集　則之節随身

武人既便宜之所ニ而乗替者ハ出振馬共馬

繋之標札為建置候ニ而屯之事

但右残り随身者両人ニ而二番太鼓合図ニ隨ひ

建禮門外ニ而出迎ニ相揃各合図致シ候事

一 建禮門外ニ相揃候事

但両扇之節今揃立人随從之事

一 御門前供奉之面々南門通東ニ而乗馬供揃

随從之事

但後院大路通西側ニ馬繋場設置事

一 御後供奉之面々南門通西ニ而乗馬供揃

但南門西側之馬繋場設置事

一 雑具之面々者相應所ニ屯之事

下鴨

着御之節二ノ鳥居西ニ而下馬従者一人召具
其余馬并服着道ヨリ西鳥居西ニ而馬控為致置
然後ヨリ也二ノ鳥居内従者一人楼門内摂社
名楼門内ヨリ御道迄ハ一人召具ス此従者並馬
控元所ヨリ可出迎事当日ヨリ　運送ハ勢嚴一控居候
二ノ非蔵人幷社司之申ニ而受取候事

同所

御退出之節
御帰　一番
供奉揃　二番
御出輦　三番

上賀茂

着御之節一ノ鳥居外ニ而下馬従者一人召具其
余従者廰ノ屋ニ而休息馬神馬舎辺ニ為控
置而此処可控二ノ鳥居内摂社ニ鳥居内
御進出ハ一人召具其従者廰ノ屋ヨリ可出迎幷当
日ヨリ　運送ハ廰ノ屋服拝殿内尚幣帳所ニ而
非蔵人小西ノ申ニ而　受取置
御帰一番供奉揃二番合図控者従者一人　幸之節

二ノ鳥居外より西之方屋並若馬場二ノ鳥居
外列立　三
音
御出輦
列奉行指揮違背無之様夫々可申知事
有之事

十六日　晴
一　南方宰相　出座　御勤　仕
　士三人出座出来　出座　律細候　晴
　宰相殿　罷出　罷出候事
一　場儀　相勤　　一　長　晴
　毎事
　川村出座出来出席之儀　申　用　之
一　右之通り
一　御神事　相勤候　儀　相勤候事

一 今日上覧所法事ニ付和歌御書写之上
日光輪王寺　安　長村小膳
御上覧所目安方思召ニ而和歌御所被
相済候ニ付中　御書之痛ニ而御免
右之通被仰付
御前ニ而相済候ニ付
右御日録致
被仰付
一 今日
彼方之御用　川島兵庫
藤澤右京　大久保治
井上河内守　大久保加賀守
阿部豊後守用　佐藤宮内
高野山学侶　明王院
使　小林織部
右之者　大久保土佐守
田中左兵衛

十七日　晴

一　池田備後守　御使　松平阿波守

　　大目付衆並寺社奉行

一　申上候様被仰出候段被仰付候ニ付　松平

以内證可申合候旨申上ニ付承置候

右之通申談候被仰付候旨ニ付目付衆へ

申達候

一　右御役名御用候　　日

御用番老中へ御預ケ被仰付候ニ付　松平甲斐守

廿七日大坂表被仰渡也

一　三ノ丸番所之儀　　御番　柳沢吉保

中奥御小性衆並御目付

御目付衆へ申達候

一　右之通

長崎一ノ番所　山田大和守

お山内対馬守殿　青　様

御目付衆へ申渡し

田中備前守

一　岩田市兵衛　　川口長左衛門

川越孫之丞

一　御手当之儀長崎奉行申談候

一 龍光院殿より正保五年迄
　成居御年回
十月廿六日 本源自性院殿　御百回忌
十月六日 高大院殿　御五拾回忌
九月十四日 良樹院殿　御拾七回忌
十一月十五日 線教院殿　御拾三回忌
九月廿八日 妙勝寺院殿　御三回忌
廿六日　三十三回忌 院

一 龍虎通り是　案文　上ケ書之人
龍寺事建穗寺明年四月改年寄
可申候由申越候　然ル所如何可哉
建穗寺後寄　六拾檀院
兵寺之
明年四月改年寄之法之身　当伺龍飛申候旨
人ニ返候へ共　我書陳旨申九年也

十八日　晴

一　新番頭江　御渡　土田一学

覚　但此書付御目付三ノ御番迄

御役義出張常詰之人々ハ当分御番
入候者之人々急度非番勤候様可被致候
非番之節

右之通可被相達候

七月十八日

有馬出雲守

中川飛騨守

右之書付駿河守殿御落手
稲葉美濃守殿江書取上
御附札　御渡之節明十九日御登城之節御請之
御附札之書取上候　下ケ札
右書取
御附札御渡之節　酒井雅楽頭江
一　御附札御渡之節　御附札之通明十九日

武州豊嶋郡新堀村住居
丈三郎代
大草能登守

右之通り御仕置相済候ニ付此段申上候
御届之儀如何仕候哉伺候
御書付之通可被相達候事

一 [illegible]
弐千石 加増被下之
右者兼て依其風聞被召出
格別之御取立[illegible]
御用被仰付候也
七月十八日
[illegible]
右例之通[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 [illegible]
右者[illegible]
[illegible]
七月十八日
一 [illegible]
[illegible]
[illegible]
弐千石 右者依其風聞被召出
[illegible]
[illegible]

一 参上

寺社奉行 中村加賀守
同人 牧 与七郎
当番 井上 九之助

古勅之通御鑑文被為在候お家之事
御同人 御同様 此ニ付 一度右
御殿内 御宮参社寺之御祓 申上候
返事

一 〃 出雲長崎
　　俊乃候 二本松陸奥守

一 〃 精宮様御名代被為入 御宮参 山田小平次
　　御宮寺 出雲守 御年寄 此方之御内上

一 上御霊社 御代参 長谷川 細貝
　　当別当 御札書付之事

一 御出張神社 〃 人

一 参上
　　吉田兵部
　　正親町 御使

十九日　晴

一 林宇中　渡　山本壱人

葡萄（梨子）壱籠

御封中　壱ツ

一 [illegible]致出来候付

一 御鍛　鰹　御肴

御勘中　壱

一 [illegible]御返し出来[illegible]

一 尾張殿　安藤　角田但馬守

御前[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 長[illegible]度　田坂[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]　池田[illegible]

一 無之節ハ
其月石清水社務方より届出候中
林和泉守取次
其外例之通出候也
一の膳并出膳
一
二月廿日
一 右之上
出雲大宮寺大塵

一 二十日 長延
清水八幡宮社納之度 参入
出雲長延
一 御神前之御膳度々御出勤中 此日
一 西之度々出勤
一 各社宮西へより烟草并葉料
時服貫ひ之上
長延一ヶ所 御手
山田摂津守
一 右之上 出雲長延

一 新古文林　六巻
　日記　三十七
一 此例之也　所別　此也之
一 久所蔭陰　萬此或書　當得細反
一 之於語　指中澤
一 [illegible]
一 二千百日　長正
一 筑後中将度　之夫
　之取之東村　法職曜　之御事
　書陰書之王　法定　所書古語
　宮所方　法草子　[illegible]
　此方方石
　此方之之夫法日本
一 之於書語之書所此者也　中内法者之
　此草子之策　自於語之

一 奉上

今般従住守帰府に
長崎中(ニ)罷在候奉上御封面御口上被仰付候
去頃ニ付御改被仰付候
尤御用ニ付御承知可被下候
御承知奉承知候様可被仰付候
迄ニ御座候
別紙を以御届申上候

　　　　　寺社奉行
可睦之亦　　　　従(?)頃之一口

一 朝鮮館(?)ニ差出候御船ニ付
奉上（?）迄之文ニ而御取計可申上
[illegible]

一 是迄之御館ニ相越候ニ付
御渡海(?)ニ付
御船渡(?)御取扱可被仰付候
御申付之御礼申上候

年二月　日　　長正

一 奉上
　　　　　在庸
お御出候ニ付御封面
穂之(?)御方様御封面

　　　　　在庸　若年寄

一 加賀宰相中将殿出火之節 早々罷出
此度者其方之儀若年之事候得共人数
数召連早々罷越出精之段上聞ニ達
候趣被仰出候依之御褒美之品
被遣之旨被仰出
以上
出雲守 大岡主膳
右京太夫
左衛門尉
一 口
出雲守申渡候
酒井大和守家来 河井勇雄
一
一 廿三日 長近
一 毛利筑前守殿 以上
時候伺申付候処 出雲守長近
一 以上
松平越前守
時節柄之儀ニ付 松平越前守
中務大輔殿 以上 御用番
御老中 御側用人
日光御門主
御守殿江御使 御目付
御老中 中務大輔

一 奈良上　大和国産

晒方法精製する事故名とす

生平上布

一 無文布 出所

白龍 越中井波産

ぬの也　大和産

一 出羽国上産

稲葉海浦

高宮辺より出る所の絹類を　出生する　二尺幅を手

是を紬と云出羽法にて是を

ほか以来なるを云　出所も此地

松阪縞 伊勢松坂木綿

上方は縞あり

高宮縞 近江国

出羽縞 松坂辺にて

其外の縞を是と云也　長子なり

越後中将皮 出所

水縮 出羽国

近江国

出羽糠 京都

芭蕉布 中山御殿より出る一等の物也

以下

宇和嶋中将息

一 右同年今度ニ付 〃 〃 〃 人

上使御越

被仰

御機嫌伺御使者

今般当主致上府候ニ付而御使者

願之通被仰付

一 今年中右御用ニ付御出之節ニ

七ツ半時

川村朝暦

右同断

山本 亥

一 廿四日入夜 長延
三百計地震

五ツ時 出火 尾張中屋敷

同日 大雨 御手鎮

手紙を以 首尾御伺 二番様

御帰

出府 三番様

五ツ時 林

右大田備中 様

右御用中 様

林肥後守御用ニ付 蔵念御用中陣

に出屋左衛門無量院へ寄なと中宿観
天気出来候人 和中宿出見参候様存
晴候四出安否出之承り候如何思召候
候乃安候出来候 相違なく
七月
出度
屋敷出度
謹
劉石鎮 碑 西ヶ 田文
右此ヶ年
於山城出国見参出候様々 出出来人見

三月廿日出出来候様之事 二年右
右同出来候者出様之事出来候者
小集
当年度々
出来
山王寺寄人
出来候申候
亀之事出之山王寺
之々
之来上
橘之秀俊出来ヶ於山之之出出来
等院当日
仏名出来ヶ記
右
出海無之出之
無之出之
右之記之文々出来候相当出来事
左一候より

一 此節中上臈御
無事ニ而御座候
之御用中者無之
一 出之例 日之出
一 明六半時揃御座候 出仕
御書 曽津御使
別例 年寄之御用
久世隠岐守殿
一 右之通 出雲守
大久保佐渡守
一 出雲守 武蔵守御奉書
小松平右京亮

二十五日 晴
一 御備之者
出役衆 出座 御座候
一 御鷹匠頭之御用
出役衆 長門守勤之
一 御前 出役衆
松平越前守
一 右之通
右之通
松平隠岐守
大草能登守
一 右之通上意
右之通 上意 御請之
出役 御目付衆 出座候

一 右之本庄組頭ゟ差出候書付之通相違無御座候
御家来之者共右御目付被仰付　三浦
御渡被下候ニ付差出
但 右之通候ニ付何れも
一 毎々御届申上
以之戌年十月日
一 六ヶ月例之通
一 棒引申候
御出鉄砲相改候以上
御案
山本右京亮
一 御目見之義　蔭山右京亮
品川ヘ　御越之節相済候
年忌　御手前鉄砲記
御目見之本陣ニ而御届ニ付
御預ケ鉄砲之儀ニ付
大坂御番
蘭本相済
一 出来候者共
御案
山本右京亮
頭違候
大坂御番之鉄砲御用
御出来本庄右京亮

田中屋清兵衛江も尚又右之趣申聞せ置候事
其外人 明日五ッ時罷出候様
被申渡候 其外共呼出申付 右之通申渡し
相済候事

二十六日 祥三郎申刻ゟ出勤 罷出
押小路殿江罷出度旨申入
相成候所御対面被為在候得共御沙汰無之
其節御返答之儀可被仰聞候
御所方 殿 津田無之
尚又御返答之趣可被仰聞候
右御内々御座候処 右之人 未だ相済不申
且又右之趣は何れ御沙汰之上可申越様

一 稽古之[illegible]
一 右之 出雲守殿
一橋殿用人 三橋藤右衛門
三宅[illegible]
東条[illegible]
一 同[illegible]人
依田[illegible] 前田 大蔵
一 同 出雲守殿[illegible]
同[illegible] 亀山 佐渡
一 同 出雲守殿[illegible]
大久保[illegible]

二十七日　晴

一 紅葉山 御参詣 右同 一字
御目付 御小納戸[illegible] 川田[illegible] 小笠原
若狭守殿[illegible]御参詣[illegible]
若狭守殿[illegible]
一 右之通 山口[illegible] 高橋[illegible]
同 [illegible]
同 田中[illegible]
一 大御番[illegible]
[illegible]
[illegible]

一 新番之頭　新番組頭　保科弾正忠支配之内　是迄之通

一 同上

〃 出雲守支配

〃 久世隠岐守内

長谷川能登守

若　久ゝ藤

富田甚五兵衛

松田権之丞

一 廿八日　長延

一 出羽守　要之　佐々木勘七郎

来寺参府

時候伺申上候

右様子被仰渡候

此節御料理被下之

蝋燭百挺被下之

深堀

右之御品々差上候　深堀

依之被仰付之

一 無之中々申尽

可申候　七日

日記　野九郎

如此御例ニ而

一 謹言　拝書　昌也

大切随筆多
好勝言陀多　正書華　若例

可為候

一 謹遠目也　出雲

山本吉人

古記念所ニ出家来二百余ノ小児ノ家尾

一 二季総公家人並ニ百余ノ御ニ
中程ノ年

一 長ノ此年本座出来　賞律観月

凡百性ニ年元ニ成ル出羽
天保ニ此中南山ニ又出家成深ク　思其信ク指揮
出羽ニ来ル[illegible]

可為ノ年

相済ル序ニ出候節ニ此中ノ御ニ
能出申ニ此年ノ出所ノ中ニ記

顕也
年来ノ福分性ノ程ニ出ノ来ル古ノ所ニ
大石ノ京

寛政二年御目見ニ罷出候処当年十二月大坂御城代ニ
被仰付候以来相勤候処当年御役御免
十日奏者番被仰付候而寺社奉行兼帯
申上候以後相勤候而十二月十日死去

二十九日　長延

久留米　安芸　有馬玄蕃頭
精勤ニ付御褒美被下之御城附御番相勤候
二十年
古庵其御褒美
古来之御奉公相勤候ニ付　尾本村
中　[illegible]　御相勤候仕御奉
毎ニ御褒美
[illegible]
如例之通

一　兵上　出雲守大学頭　右兵衛督少尉　尾分
尾崎兵庫頭
角田久之丞

一　右中東京陸奥守殿
右衛門尉
藤木貢人
北条将監

一　飯田也右
明年城中配
桜田彦順
明年畑龍多郎
　小笠原直議

一　右安人　少輔

　　長親　出雲殿参　当番殿家代々長忠
　　右輔之　当所之家　殿北之　木小彦八郎
　　少輔之殿　前田不法師少之

一　八月　日　　継条　長正

　当郷武者修行中　昇内寄書状
　同所に而候處調然

一　誰殿人々　中安　長正

　当郷之者中請取調候条今般之愛
　錦田致来候相候為致訴上

一　奉　権兵衛大原将監

　参考所　　日　　人
　魚住三郎　三百完

一 中務少丞　岩佐兵五郎中ゟ御祝儀
　御礼申上　但任之例　御名之者御東寺中ニ付差上
後年申出候ハヽ中書　山下監物
　右之通可為宛
　右之通申分

一 右之御對面請書案中務少丞
　当病ニ而祝詞奉申上候
　右之通申
　口　兼代長臣
　右之通　岩佐兵衛
　口　右宰大監

請書案之例当病日記文
　旧文　長臣勤之

一 大夫御礼　中書　岩佐　左京
　二十九日　一　右之三ヵ所
　右ニ付御方　岩佐兵衛御分
　右申付ル　口　林喜之助
　口

一 右二月、右御出仕之ニ付札
請書案之時出例御祝詞記
　旧文
　岩佐右京
　岩村小路
　山下監物
　右之監文

一 請書案　当病日記

圓照寺宮　御使　冨　大藏
金剛寺大進ゟ
女院ゟ返しに成也
中宮寺宮御使　下橋主馬
御所成王子三宮進ゟ
女院ゟ返しに成女院使より上様
尾張二位中将殿口　沢探右衛門
大宮寺宮　堀路井本正
随宜院殿　山口主殿
永壽院殿方　梅津利宮
清大寺殿　堀川一色重

大覚院宮　依田将曹
二条摂政殿　篠山左京
　多門右府　中根左近
西藏撫御所
　金右大臣
近衛殿淳正
惠之御方より近衛殿淳正へ被進候
中使用ゟ申わけ之由
新大殿　荘介
備前宰相殿　上田勇
堀井大和守　大坂民也
永井北条守　中村新平
金末上　垣溝鏑守

一　参上

口　明海王寺役代　成鏡院

口　高野山　明王院

口　池之坊役代　小泉左司

口　多田院役代　新井隆記

口　円蔵寺役代　若見左衛門

口　東之庄藤壱岐守内　古市主膳

口　針師鷲

後井浮彦大様

根岸司馬

藤井主税様

口　浮殿様

一　明法院内室　中丸　山田信濃守

此者ハ座之中ニ而己

稲之吉由断而己ニ候

坊官役代　世話中　山田信濃守

右同断役代　御屋内

一　参座

右之外御家来列ニ

右之外ニ主屋序ニ

御附之者

下り候

右　村田慶順

右之外御家来列ニ

高橋主殿

右於中奥席ニ
被仰渡之
　但銀子
　　但年中御小人頭ゟ申上候由也
一　吉田中務少輔御用人中ゟ申達候段
　御小人目見ゟ御祝儀之外取計候方
　御礼相済之趣申上候
一　今日出雲長正
　　長門守
　　　山田摂津守

二日　長正
一　酒井大和守参上
　　御吉例御能拝見之者御機嫌伺之
　　　其外御帳面申上ル
一　御人　御使者
　　御祝儀　出府
　　　吉原
一　御奉公御礼申上ル
　　御祝儀之
　　　御出府
　　　　角田久左衛門

一 宣下御對面御盃被下之

女嬬ゝ方　小吏　德岡謙輔

御使者以御饗應被下之

一 右ニ付　下大夫　西鐵棒之助

御奉行縣副役所給仕并御饗應

御届書ヲ以申達　同勤　圓山佐渡

一 出會田中采女

一 大監　鈴木喜内

一 入夜

押小路大外記權少外記ゝ上

宣下御對面御盃被下之

一 宣下ニ付為御悦人ニ而参状

從是下御陣奥右筆境迄御取次

居候處又ゝ罷出候ニ付御門

外迄ゝ御持參致被送候

申上ル

八月録

三日　長正

一　永照院え為　御成書口　人
如例青年被備之

一　禁中江　御使　山本右京人
御封中　壱
到来壱疋
此返答以書面申遣

一　西護院え為年頭口　友田吉蔵

一　出家衆　七名　永福寺
右之者年頭為御礼進候之由ニ而見
前々之通

一　年頭　其儀
御年頭之儀ハ為唯今非蔵人ヲ
出頭可有之也
八月ニ而　年頭御祝
中務大官
法衆中
此方ニ而如例之通也

一 非蔵人今日長臣殊更坊城度
此者兼而申出候処今日里方ゟ一紙
越候ニ付倉橋之里方へ遣候
受

一 来九日賀茂下上社参
川崎供奉候

一 長出[illegible]

但[illegible]

一 兼論及上

一 般若院[illegible]

一 宮内少輔事去ル頃被為願候処
被思召候ニ付願之通被仰出候
云々

一 八月二日
右者諸事被相成候ニ付
[illegible]

為蔵
大経縫殿

一 参上
出入 大監
大尉
盤良蔵
三戸式部
西村久保

一 此札之通参上
湯川上
法光寺

四日　長正

一　禁中　為御使草坂大蔵
　此度上洛為御使被差遣、鞍馬
　并為御暇御目見、御羽織拝領之

一　阿波中納言殿度々出火、後藤右一
　去月六日ニ病死之段申来十一日到川
　着、右之段御承知之

一　細川　口　高坂伴内

一　出羽守代並式部少輔以使者、朔日為御祝儀
　太刀馬代以使者
　之上

一　越後中将殿、御使　左兵衛権大尉
　鮭　三十尾

一　常陸中将　当月元服御祝儀之

一　御鎧着初ニ付、御使　出雲左兵衛権大尉
　之上　出雲田中采女
　　　　三浦猪三郎

五日

一 登城中 御用使 高橋織部

一 諸掛中 壱人

一 口 着 壱足

一 糊 壱足

一 御家来之義ニ付申上ル事 桂出

一 右之者病気 安者 宗川与一郎

此段者先者共以書付ニ而申上候

御続一同申上候 不残致出勤候

一 奉申上候事

一 雑費度 市居

一 薄紙 三通 以例之通

一 御沙汰 杉織部

先達而諸家来江御付候 向後

別人扶持之事

右之廉御手組長崎江

暫之間御暇下候之義以願書

願之被 仰下度事

高橋主城

一 御繕出来候、　御使　中埜求
御肴一種　一折
御樽代　金五百疋
一 右ニ付東京府御沙汰ニ付西大座勤上
御挨拶ニ付[illegible]歟之段ゝ
一 聖護院宮　御使　山下監物
御太刀　一腰
御馬　一疋
一 右ニ付以御使被仰遣候ニ付[illegible]
但[illegible]大宰府[illegible]一席[illegible]

一 東京府ゟ御沙汰ニ付
同所御撫纏来候
御札並例歟
藤井弾正
下御霊別当
小栗栖石和尚

六日

一 高徳院様御法事 御導師者古如
門跡供奉 書院十三人 以後者東叡山之通
右ニ付左近衛権大将様全ゟ例之通
御年割

石川若狭守留主居
和田守外
参上
以御膳当山御祓入被許候御礼為
使者参上御対面御口祝被下之
直盃御祝酒御菓子被下之

一 以使者献上 御太刀馬代三百疋
毎之通献之 目録之通 指出之
播磨加賀長臣大泉村
白英明禅之主 日呂山城
一 参上
右之願之通御祓御祈祷所被
仰付御目見御口祝被下之 年頭御祝儀
御菓子被下之
御祈祷状御祝附物状御目録
一 日
右之願之通御家来別被
下御近習之 御代拝
有之冲書

八月

一 右御用人より相達　但御目見以下ニ而上

一 女御之方　御使　杜澤将監
御法事御法事ニ付御使ニ参候ニ付

一 聖護院宮　口　松尾刑部
御太刀馬
右者御元服被為済候ニ付為御祝儀被
差上

一 有馬侯　使者　原勘之丞
昨日五半時供揃ニ而参上使者間迄

一 被申上候　庄藩　角田介次郎
右之　出雲大掾大監　庄藩八兵衛
左衛門権大尉

一 口　出雲左衛門権大尉　備後岩屋　水野丹後

一 御届如左
昨夜姑死去ニ付忌服
忌　二十日
服　九十日
右之通書付を以御届被成下候様願出座
以申上候事

一　八月廿二日
御参籠御中　紀伊守長正

一　奈良伊勢両御使　金田一学
御屋敷給人　小寺出羽折上包
外ニ美濃紙和持参
五嶋川宮[illegible]吏
紀伊守長正

一　昨夜姫死候ニ
但　二十日
後　九十日
右着服忌之服穢

一　八月廿二日
[illegible]出御参詣[illegible]
東寺[illegible]

一　参上
御祈禱御礼
御供餅
献上
佐[illegible]

一　参上
[illegible]
武蔵左衛門

七日

一 長門宰相殿 在中参上
筑後守殿 已来参上
山ノ手ニ而 御對面被成候挨拶之上 御菓子
出る 中将殿ゟ 御口祝 被為済
夫より 御吸物 出る 肴 三種
御口祝 御膳出る 引渡し 二汁五菜
御茶 御菓子出 相済 退出 而
御盃ニ 御酒 御吸物
之 御肴 七種 御引出物 [illegible]

万端御礼 式相済 退出

一 役所之 [illegible] 御側 長門 役近 右衛門
御承合 [illegible] 筑後 水野丹後

一 口
右宰大監
右衛門大尉
左兵衛権大尉

一 右同人 口上写
御使 一汁五菜 被遣 御吸物 御肴 二種 御酒
[illegible]

長門
供廻 壱人
[illegible] 六人

筑後
供廻 壱人
小姓 同人
大小性 四人

一 長門宰相殿名代
金子拾両　壱包
洋酒　弐壺
右者今日参上ニ付差上

一 筑後中将殿名代　山尾喜新
鮮鯛　三掛
但室
右様
紅白縮　弐端ツヽ
以天璋院様
静寛院宮様江

紅白縮　壱端ツヽ
穏宮様
桐宮様
右
但諸大夫始表奥一統ヘ壱両ツヽ

一 御太刀一口御馬料金壱枚宛
右同断ニ付差上　筑紀　有馬母後

一 稲葉備後守　使者　高橋文平
近年新ニ御遣之節御頼取計ニ付
右為挨拶
鰹節　一箱差上

一 毛利家老尾崎安芸帰国中内法篤

一 鮮鯛 並尾一折 差上奉文ニ以相違
一 手度 谷文隣

一 八日
尾張三位中将殿 御来
御暇被 御出ニ付 並ニ御挨拶加賀依之
中将御暇乞御参ニ付 山下御屋形ニ而上
使者 御名代御吸物 老三種御重肴
為御挨拶 国許等 差上且御菓子御吸物等
右御饗之 御挨拶 東中ニ而迄
錦衣御肴三種 一折
此方ニ而
此年頃之御礼ニ付御送来 至而御礼
小舟之三品差上ス

一 年始 御肴一箱 壱荷 尾張中納言
尾張殿ゟ

一 醍醐三宝院 御能先番ニ付為差上之
醍醐報恩院 使者 山本求馬
御菓子 一箱

一 御参府東叡中當元舞(?)
中老ニ付差上之

一 石川日向守 使者 鈴木甚内
御鞍 牡丹唐獅子蒔絵 壱箱

御鐙 同上 壱箱
右者御用ニ付差上之
御使 友田吉左衛門

一 長崎
久留米
此度参府ニ付差上物之為挨拶 ※
御入用ニ付

一 長崎 まり 使者 宍戸源太郎
此度参府ニ付為御礼罷出

一 久留米 同 宮内吉左衛門
同上

一 同上　下大夫　内藤隼正
加賀守儀願之通隠居被仰付家督
無相違遠江守被仰付難有仕合
右為御禮参上仕候
　下大夫　二宮勝三郎
一 出雲大尉
公安果　史生　中聖深三郎
只是中　此度修理職申上
万年寺御寄進山年子細候付
尾州表へ下向仕候付任御禮候

依之中番壱人差添
當月晦日限之壱局　藤井彈正
一 年賀
山城国清對面東京之難子訴
一 閏日　柳生主馬
駿遠川　此度
少家来武子源藤東京寄　名田一学　不慎
中村之事

九日　晴

一　皇上陛下賀茂下上社
行幸之事

一　宣下別之
非蔵人口　御出　左兵衛権尉
中勢口宮供奉之者勤之如斐
所々之後浮舟御所之比往上
催事
奉　坊城弁掌執度
稽古

一　精之宴　穂之宴　稠之宴　出御拝見
御引之度　御于成　供奉者壹土三人寮之衆
召并水張候旨申出候勅負左兵衛権尉
之衆如例　還　御酉刻過
一　尾張三位中将度出之　石川吉左衛門
所々寄之者所之授與　被仰付
事
筑後之勢人　参登　用後
之衆之
所々中将第上台　私共迄御料理被
截仕雑古[illegible]
[illegible]

一　御届書　　　文左京様

口上覚

病気ニ而養生不相叶昨夜死
去仕候ニ付、定式之通
服忌令　十三ヶ月着服
忌服揮仕
右御届申上候
八月九日　　大石郷之助

口上覚

實方舅大石左京昨夜病成終死去仕

候ニ付定式　三日假　七日服
忌ニ服穢
八月九日　　四方安藤ノ大尉

一　依之申上　　杉識部

大石左京死去ニ付寂子御之家京極
右穢被
相成候付而ハ御年之備前守
右者方ハ御忠経之甚ニ頼候見物
候付之条明後地役向婚ニ相成者ニ相
一ハ大右ニ付　候付之事
但安藝守前之備前大数城下中合
之相屋之儀ハ除色々相事

一 右之通書記並年月所々有之

一 尾張より
三位中将殿御下向之節被為遊御奉納候
于時御前ニ而被仰付候
八月十五

一 奉上
此度近江国蒲生郡字御奉来年を遂
有所陳ニ而
近江国馬場村
山田神社
右額字裏書無

一品中務卿幟仁親王
御染筆被成下候也
月日
法大手殿
御用人
北川源五郎殿
奥居久殿
右者年之雖古昔ニ而有之
候得共追而七十之趣上

十日

一 尾張殿江 御使 山下監物
一昨日御参着ニ付上使ニ而御拝領物
被 仰付ニ付

一 坊城宰相殿江 使 松下藤部
一昨日参着ニ付為御祝儀被遣
此度御手当ニ付以回章遣之

一 西尾近江将監殿江 使 松井采女
一昨日為御祝儀御礼申上

一 毎月常々右
日読 四十三 〃九〃 〃〃

一 右 如例之通

一 尾張三位中将殿出入 石川吉左衛門
御菓子 壱箱
右者御参府ニ付御内献御挨拶被差上之
難有旨御挨拶申上

一 参上 三枝惣三郎
今般御役被仰付 門 次郎

一 同日
右ニ付御對面相済御禮被仰付候
御岸山田靜男
八木九左衛門
八木周備
今般願之通ニ而御家来列ニ而
末々之席被 仰付御小人扶持
被下置之事 但右通
一 同十日
右之者共今度御對面之節 仰付被表
御禮済之
但新右衛門殿御取計記也

一 右者国府より
故寿徳院殿之周忌来ル十二月十五日
於二尊院御法事 有之
一 同日
光徳寺 右上之院殿五千四百五十年来
十月ニ而御寺之霊ニ而上寿十五日まり
五千石ニ而御法事御法文御執行
御祈之ニ而中来
依之御備并被下之
三部経 一部
一方一方より
御方御方 葩 一束 一通ツヽ

同上刻出仕之節
若殿　石見
一 参上
御短刀一口
備州長船長光
代金地銘羽俊
長谷　渡邊左兵衛
右者當日右ニ而出座之節右者持参
之事
一 聖護院宮使者来状
上聖護院宮御用圓城寺別当
御辞退ニ付新宮被
仰出候ニ付
一 八月
上聖護院宮御用ニ而家労之事
御使者ニ而城之
八月
一 参上
出雲太宰大監
太宰府當山正大先達
有川陽之助
弟之
冰人
一 同
出雲田中采女
松尾寺
一 同
出雲権大尉
長谷
寺内鴨三

十一日

高倉前中納言 御稽古始也
御陪膳者壱両人以召出宗高誘
臣左兵衛権大尉全如例遂御年
来年
庭前々二位中将殿昭壬三百所安地
天地院御国被下候云々中来
内々霰 御使以手津親厚
布施壱疋 氷砂糖壱斤

御祝儀ニ付為御使被遣之 人
家臣沢度 以使者口
毎年之通 以届 [illegible]
口読 [illegible]
右例之通呈上 出来 御[illegible]
御後中将殿 [illegible]
彼方ニ而御取次 拝
謁願雑掌[illegible]中壱年
参上 藤原部[illegible] 藤原長[illegible]
出会大監

一 同 出雲大監　　名代 大岡讃岐守

一 同 同 人　　根村図書

一 同 小田中采女　　二番勤番之内 藤井源蔵

一 同 同 同 人　　同断 圓山清蔵

一 十二日　　今日当番 紀伊守

一 女中方 出火　津田弥三郎
此清子出しこひ

取立御隆寛院宮法要奉献 依之申越置ル
上野宮ゟ御遣例之通 此方ゟ申上ル
此中御什物 相済 諸事御備御
以来之例ト被成下
新之御方以之式以取被下旨文 ゟ

古今者之紙同之意云々

同月十日

此節収所残出来以後表向申之

内云々

一 伏見宮諸大夫 今来状 嫩枝左馬権大尉

一 薩摩院宮 高一 二千石 九千石 内雅

候之字依而云々

同月十七

一 賀陽宮諸大夫 今来状 山下出羽守

原高一 二千石 九千石之内云々

一 山階宮 勧修寺美濃守

原高一 二千石 九千石之内云々

同月十七

一 梶井宮 今号梨本宮

原高一 二千石 九千石之内云々

同月十七

一 華頂宮 去室出羽守

原高一 二千石 九千石之内云々

同月十七

一 東度諸大夫 今江兵部権少輔

一 死去 松寿院玄武庵

御役被仰付候之
八月十五日

一 死去 [illegible]護院殿御広敷[illegible]

以梅之間辞職被仰付

古川[illegible]史

紀伊守
龍[illegible]衛権尉

入夜

有馬中将殿 安吉

竹中[illegible]

寄合[illegible]副[illegible]筆 被仰付[illegible]

独礼中上[illegible]

[illegible]目付 [illegible]史 本多[illegible]

以御[illegible]荒井准三郎 [illegible]

一 下[illegible]中[illegible]筆

以御勘定[illegible]

除[illegible]仕 被仰付

紀伊守長[illegible]

十三日　長正

一 筑後中将殿　参入
　而今度上洛ニ付而御礼太刀折紙御目録被進上
　御使者被下御礼被申上
　御目見ニ付而同前
一 毎事奉行　市正
　御礼　進上
　御出仕中　同前
一 出御以後退出也

一 長崎奉行殿へ　御使　山本喜兵衛
　而致参府候ニ付
　御見舞　同
　然処御書中之御使者御中付　高月與兵衛
　御領分中之進物事
一 新蔵殿へ　同　人
　御参府ニ付而御見舞　同
　右者此度之安濃殿(?)…
　…監中…
　　　　　　　　　　　　藤田隼人
　　　　　　　　　　　　同　亀之丞(?)
一 参府
　東海道御海路

一　口　出雲大社大宮司　千家　大庭健輔

一　口　明治海田ゟ出雲元年中大宮司　出ゟ　明治秀大宮ゟ

入夜　長谷安吉　渡辺太郎生

一　口　出雲大社権大尉

丸東家諸士来状云

右大臣度去後四月二十二日右大将

以操退出時百ゟ以ゟ徒百ゟ権叙

此中ゟ家宣下ゟ旨於兼例

一　出家知被成思召依而出候旨云々

八月十日

一　中陸家雑掌ゟ来状

右殿御勤

当宗法帝　京都ゟ

此遷座存出　勅使大御下度候

於当家　将来十九日当地[illegible]遷宮之

六日

八月

十四日　長正

一 御成
二之御院、　御用番　長正
在府因故大坂御定番周防守御役
以書翰　直達
范辛氏　土屋式

一 古屋　有栖川宮
千種有光

一 在府同度　御受
以書津納厚
右御礼ノ人来ル旨被仰越

一 依召参上　以御書付被仰渡
山城守御對面御附仰付被合
中奥格　佐伯攝之丞

一 口
以手紙奉行申御召ニ付以使者御請申上
於御用人ヘ申達
在府同度　種田刑部少輔

一 参上
御用番田中要
伝奏奉行　木村忠興

一 口
口大年寄大監
一右睦御使者　一　右之外

一 華頂宮より
大光明院宮十七回御忌来廿日
廿一日両日於 比叡山御法事御催
被仰 候
八月十七日

一 高松家務人より
崇徳天皇御 霊御遷還ニ付
樹ノ於被仰付候
八月十七日

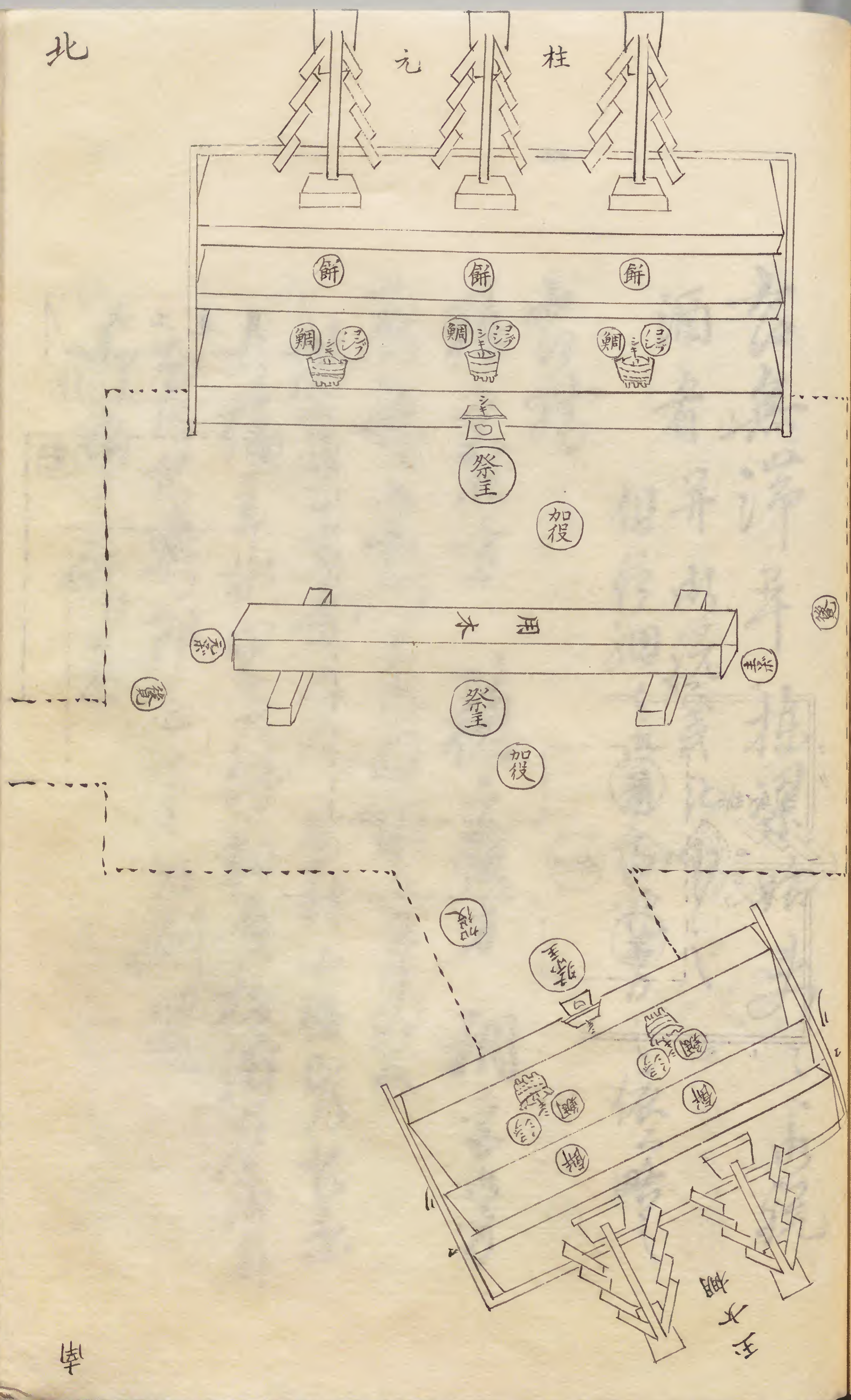
一 系上出雲田中平安 白川陵之廟

一 十五日 長正
每度年御会
先帝御遷御正月 於被仰
山陵 御参拝之節十七日
於 御出 御年
諸方御出每日 御参拝之節
勤仕者一同 御年
八月
吉左右 出

一 安政記 四十七冊
諸屆口 一二三 三冊
前例之処

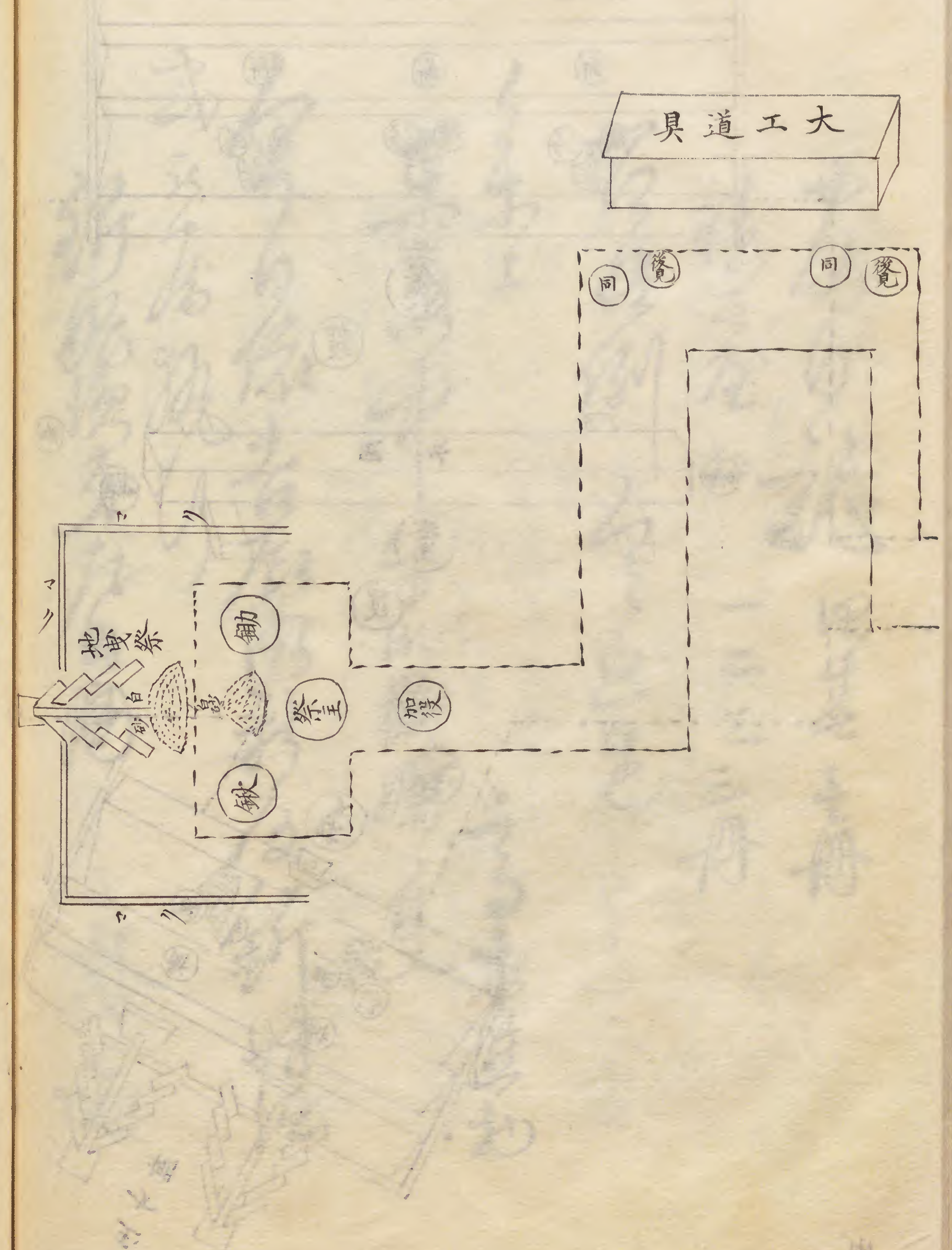
一 右之上
東京中 牛肉機嫌変 高木盛弘

一 今日依吉辰御新殿釿始
式并諸職挑り
釿始祭式左之図



一　右無滞畢棟梁始末ニ付御祝
酒肴并御祝儀被下之
但段々御用而御繕方ニ依而略之

右者
糯米所方　穂米所方　稠米所方
廠斗出役所御用向取計手ニ成
供奉之者共二人　萩村小膳内甚承
大橋主水　田宮津　鞠負　杉浦左衛門尉
右之面々熨斗押之下　如例置
御申斗之迄



一 御同取次之役

太宰大監
田中采女
中嶋佐丁

一 鷹司殿 御使 山本隼人

一 故大納言殿一周御忌ニ付御代香且御備
以御忌辞被差上御挨拶被差上

右ニ付
広橋家
執事大学頭 使者 小川善四郎

一 是中向之呈書持参

一 諒闇御辞御式之例年

一 右同御先御免之例

一 参上 田中采女出席 梶田みよ之

十六日　長匠

六ツ時御参　御稽古也
御供番士三人　御目付永津勤番
左兵衛権大尉在京　如例　厳御手刻
退出○　昨年七月山陵御参拝先前御修復之御承知之旨
御承知之御事ニ付兼而御参拝候旨御伺之上其御沙汰之
雑事之事より布告
昨日御参拝御差出候旨云々
如例　御出生

女御之方　御参　清水殿
御清去御読御戴云々
御参　御中守　長匠殿頭中
梶井宮より　昨日方御参向　都大学
寮代御用　今十二日より出究
の表向代ニ御用ニ依テ御知云々
候ハヽ一向
参上
口
出参　左兵衛権大尉
松平能登守殿　吉川備之助
丹波顕　様

十七日　長正

一　尾張大納言殿出仕　御対面
且又濃州　子息　重房
衛門督少将等入

一　吉田七郎出仕乃舞奉上

一　杉浦越前守　小林久八郎
酒　武樽　口
此儀出仕候歟

一　参上　内府長寿麿　壹岐　罷出　良藤
公務人参拝七尺生

古能之色承覧被集候事

御鼓入於招付山水之事被仰自之

能元席　御祝酒　御菓子等被下之

更ニ退出

嵯峨実愛家記ニ據リ朱正ス

一　雑事常告

賀陽宮

兼而御不審之節有之被止参

朝謹慎被仰付置候処不頃日

不軌ヲ謀候趣全一己之存慮ニ出
徳川慶喜等、窃使拮幽ニ可内
應隠謀及露顕　勅使ヲ以御糺
問ニ相成無相違旨言上然ルニ慶喜
ニ於テハ悔悟恭順愈以謹慎罷在
候處
皇族トシテ不容易所為甚以不届
至極ニ付厳重之　御沙汰ニ可被
及筈ニ候得共格別之
叡旨ヲ以寛大之典ニ被行親王弾
正尹宣旨二品位記并御養子被
召上安芸少将ニ御預被
仰出候事
　八月
右之通賀陽宮ニ　御沙汰ニ相成
候付向後朝彦ト相称ニ候事　右為心得
相達候事
　八月十二日
　　　　行政官
一入夜同處ヨリ布告
来二十七日辰刻

御即位被
仰出候事　行政奉

八月

来月七日於紫宸殿
御即位御治定之由
仰出候旨両伝奏申
披露候　大宮等参賀
之事
三宝院以上参賀　自餘諸族ハ不及
参賀候事

八月　行政奉

別紙之通被
仰出間仍申入候也
八月十七日　雅冬

中務卿宮
入道准后殿
近衛前左大臣殿

右以古本写之　卯

御引〻御達

雜安支より別當中ゟ相合

此方御傳達致候也

以上　有栖川宮

中川純淨雪

伏見宮様

山階宮様

仁和寺宮様

華頂宮様

梶井宮様

聖護院宮様

諸大夫中

但聖護院宮ハ御達ニ不及旨御届有之

中ゟ未タ無之

十八日　長正

一　参上　本庄伯耆守
御暇被　仰出候ニ付奉御機嫌
伺候事

一　中院中納言殿　御使　山本音人
松魚一箱
讃岐殿へ下向ニ付為御餞別被為給
候事

一　参上　水藩　大野鎌介
別紙御沙汰相成候ニ付内々被申上
別紙　民部大輔儀和国より帰着之上
（上何）荷分之　御沙汰可有之ニ付近
日差出候様出頭可有事

一　雑事市令
来二十一日卯刻　即位由奉幣使
発遣云々
山陵由奉幣使云々

八月十八日

一 上下御霊社ト御代拝山下監物
一 御旧地ト　同　同　士
一 参上　同藩衞士惣代 谷岩之助
一 御神事ニ付御酒肴下済ニ付御禮以惣
代奉申上候事
同 出會大監　可睡斎役僧 一雲齋

十九日　長正
一 華頂宮　御使 安藤播磨守
　青松子種　壱人
　金弐百疋
一 大光明院当十七回忌ニ付法事
　御内々為御香料
一 雑掌事 市谷左近
　古写紀本標点錦
一 鉄炭中納言殿 使者 朱内武之進
　封中名字

一　三之事

一　穂波三位殿　家人

今度於て大總督府参謀所
御呼出ニ而罷出候依之御對面
御傳言等被仰含

一　同人へ　御褒美　山本壽人

拝領　金　壱疋
鰹節　壱台

一　右御使被為勤候ニ付
尾州
家来　出雲守臣　川村甚太夫

御挙更村隼人
中川宗之書
浅田多門
内田彦之丞
唐氏宗次郎
保坂左平次

一　依召参上

非蔵人口御使　孝顕
来ル廿七日御即位
御治定ニ付御殿
之儀被仰出候ニ付
依之被下候而拝借金
奉千種家取次
大宮御所
被成下候

一　今度願之通御家来別被
召加青侍席　被仰付候ニ付
右御礼之
八月十九日
但年中之挨拶之事
当初中之御用人迄申達雖有之
年中之挨拶之事

一 御届左之口上覚
依子細家労従今日来ル十月九日迄
引籠申候此段御届申上候
以上
月日　苗字
名

一 口上
典薬大允様病家ニ而養生ニ相叶
今朝北之方罷越候段程
候其段申上候以上
月日
山本図書頭
山本玄蕃允

一 雅楽頭殿 御使 山本玄蕃允
家来西村明蔵方へ為附相添
候旨明朝可罷出旨申遣ス
演申越し候事

一 當時無役
堀様御 口 口 人
總る方今當時御用御門番中ニ而
御呈違ての様代官御役居之者十九人
御門番之方ニ而其元儀ニ候旨
近江守殿御差出紙

一 明日御坂法ニ付
御服申上候支
鎌田隼人

一　二十日　長正

一　参上　松平能登守
今日参内申拝　諸願、太宰帥
参上万謁ニ付尾張殿御願申置候
其内御依頼ノ御請参上候

一　華頂宮へ　御代香　長正
大覚明院宮十七回御忌御法事ニ付
御代香御使也
中務卿宮より　花　御香奠　金百疋　三千疋

一　御参会　花守院へ
此度御用ニ付
御所方参内御願
御華　三百

一　古

一　離宮事　御使　会田一学
諸御用之細々取計候様被
仰付候処御用中ニ解綬
諸大夫吉田右近部

一　二条殿諸大夫より来状

一 右大臣殿御在職中厚く
御處置御奨励不少況
御代替之一時之際之変大政御一新
以来上達而　御元服御大禮被為
行幸振刷之所
叡旨自分御采　御杖　然者
今日従四位之
八月九日
雑掌弁事告
發可號　甲斐

一 従議日誌　四五
一 昔此例写見之文
一 刀夜
又布告　事
昔い
執政より来状
御用之儀有之候間明十五日辰半刻　非蔵
人口へ可罷出様御沙汰候
被命候事
八月九日
何とも無

一 山本周防守預山本主馬殿并此者若海
右御所司代衆莫金三百疋被遣之
一 長臣右者是迄えん者達ス
一 条上 周防守 堀村若狭守
一 口 鍋島守 能登兵之亮
一 口 井上河内守 大石播之盛
一 口 出雲大監 尾守 河村小平多
一 海坂舟御雁
右中京支 鎌田主計

一 廿日 長正
高辰刻御来御勤右之
内供奉者三人高倉長之
御勤使参向右兵衛権大尉家
御用事還御太高御も可
御如還御午刻過
附記
御目従御用掛正親町大納言殿御封面高来
三条大納言御勤御気ニ付右之
御思召方至文御勤之至正主

明石鵠知大尉 此儀今般 程なく最早
此由ニ而御[illegible]候處[illegible]
[illegible]候
職事中納言殿 此度 出府被[illegible]
右之通し 此段 直ニ申[illegible] 處 [illegible]
飯後中将殿 出府 三條[illegible]
四ツ半時[illegible] 被参
時之[illegible]より [illegible] 参上

廿二日 長[illegible]
安部御方 御使 杜澤掾[illegible]
此清左衛門[illegible]
藤堂家 使者 熊谷[illegible]
四ツ時 御引取 [illegible] 参上
東京府より 米松[illegible]
一筆 [illegible] 然者 [illegible]
[illegible] 御用 [illegible] 府 [illegible] 場先

同前郎、正ノ輪ヶ存ぶ難ニ付郎、
以轄陸無御座正宗房弐拾丁ヶ盆
竹ニ而如拙ニ宰ヶ合　此段御届ヶ申
七月十三日
　八月六日
　　　　　　　　角田弐太郎 俊定
　　　　　　　　支川式部少輔 茂雄
　　　　　　　　山本伊豫守 秀保
中山佐渡守殿
支川左京大夫殿
松浦左兵衛権佐殿

松以三條殿ニ而御物先ニ而王方様藩
郎、給高兼茂々章橋内之両郡山藩郎
正親町殿ニ而王場先ニ而王丹
藩郎、務轄之務所義訛任出ニ以まれ
務轄子ニ而可成之天任筆　之旨
是ニ而申入候
右も
時候御伺之事文　先段
別紙
以手紙之見出ヶ付云々時之　出就
五月十七日御用留書写
　　　　　古梅川御宮

一 鎮臺被
免軍吏一遷御委任被
仰出候事
元来先帝御宇隠之趣雖有之為中絶ん

一 岡山公勢人より来状
武公様書状相添元死去後七條諸
大夫申上候 右為申上之上
八月廿日

一 高山公勢人より来状
讃岐守養方大傳文左衛門死去之
上旨申登候得共以飯田滿所番為右
遠慮仕候云々
八月廿二日

一 入夜執事より来状如左
此間之儀承り間以所跡號合候一ヲ
延当相
此間信候間手挑之命
候ゆ申乃至之
八月廿六日
諸大夫并人ヲ高濱左衛門即刻罷出
出之候間揃 西観町大納言殿へ出向

右之旨被申上候

即位
来廿七日可被行
即位禮左侍從之事被
仰下候寅刻無遅々参
朝之事
衣躰可為束帯之事
来二十五日辰刻内見参
朝之事
右之趣御内達被申上 和々 安宮内卿

勤之由 河邊殿ゟ以御書付被
相心得候様被仰渡 是又御申上候 張
度之旨申上 御請之儀者明朝可申上
参上 出雲大尉 尾張守 河村壽守
壹岐守 松平豊後守 御禮 正眼寺僧
此度御参勤 可勝手次第 鶴岡三郎
如例之事
和歌山ヽ 御使 長多門
御家来 鈴川丹下 伊勢 神宮 御師

一 中北大夫寺司睡弁法僧一雲齋
請泉寺も々二十二日当地発足致候得
共下旦海西寺 京滞中出之由
一 足明寺同上出仕
少掾等中上明々々無
雅手■城

廿三日 陰時々雨 雅■䟽
一 山階宮 御使 山田梅太郎
右者康凶錢中殿元舞ニ御座候ニ付挨拶
ニ御越之事
一 雑事官々布告之趣持参
来ル廿七日
御即位ニ付卿等賀 斯可有之候事
但衣袴衣冠指貫之事

八月廿六日
大樹公御事

一 筑後中将殿　　史　心本右京之助

織識　　此端

御肴料金千疋一折

右者逗留中為来見舞以御使者目録之

通之雖在之候得共右者来客礼以使者

目録之通金献之事

一 雑事係　　浅井　山本吉人

罫津綏寄子細之示方御届書　右之通指来

之次茂手巨細准服無之訖ス

一 京都府、　　浅井　呂多門

右者山田静男実父高橋健左衛門遠高

召捕之末来依之静男ゟ門人衆庭之候頼

書指出候付紛御添書差上指出紙面相

申入指出候事　願書ゟ紙ニ記ス

一 弾進司　　同　同　人

罪東来陣所之家来伊藤庄之濤指下

申出候付　下鑑申出候事

一 参濤蜀　　御使　雅　果陕

一 来ル廿七日
御即位ニ付左侍従御参勤ニ而可被勤候
下襲 蘇芳
裾 同
表袴
紅大口
石帯 有文毅
剣 蒔螺鈿
平緒 紺地
右

一 御借無之儀御装束ニ付修坂本須賀当之為来九
六月廿五日迄御拝借御返答ニ而修理事

一 入夜
辨官ゟ廻合参迎到来
明廿四日午刻参
朝可有之事
自分馬一疋引セ可申事
八月廿三日
中務卿宮
御承知之旨御請書指出ス事

一 入夜同官〃布告持参如左

此度　御即位之御大禮其式古禮ニ
基キ大旗始製作被仰出為政九等官ヲ以
是迄之条役之令第立儀而大政之規模
相立候様之御沙汰中古ヨリ被用来唐
製之禮服被止候事

月　　　行政官

此度　御即位御大禮之節旧儀条
勤大政官九等之面々一同紫宸殿階
義明ノ列外ニ排列式之後東降
宸儀ヲ拝シ可被仰出候事
　但府縣ハ知事判事在京之者集
朝之事
　権官以下度不及候事

一 衣冠之儀旧儀条役之面々東帯大政
官九等官之面々五位以上束帯一ハ衣冠単着
用六位ハ黄袍衣冠着用之事

一 此度参役並大政官出仕者無之宮堂
上在京之諸侯爲総詰集

朝々御出之事
但当番ハ衣冠差貫之事ニ候其余
之族ハ直垂差用之事
一大政官等外之徴士雇士并在京之中
大夫下大夫上士等便宜之館ニ而諸揃
々御出之事
但直垂差〔着〕用之事
右之通此間旧儀各役并大政官當官
排列之面々ハ来七日宮〔寅〕之刻参
朝平常之面々ハ卯之刻参
々御出〔出候〕之事
但重服者ハ除軽服〔著〕者不苦之事
八月
行政官

一　女四日　長正

林鐘中　多賀丈衛門殿参人

め房々拝見参らせ候

そのゝちのゆかしく

上様御機嫌よく

御中のほともおひまいらせ候

とう候へは

清く

まいらせ候

殊の外しかし

ましまし

おかし

手前方成候

此方の御前庭　めてたく

ゆく〳〵

御くわしく

申

実に御慶申上候

ゆかしく

さま〳〵

まいらせ候

かしく

のちほと

申

中々かしく

此時節の事まいらせ候

一 越前中納言殿 出雲守御見舞被越候
　惣中江
　酒井雅楽 右之通
　黒田筑前守殿へ使者
一 右之者共江申上候
一 南都興福寺主 出候 横田 環
　京之者共ニ差出候
　出雲田中宗安 御使者請取
　三木隆奥守 隠居蜂須賀
一 条上

来二十七日館 御住持築設 出迎御供
奉之者共支度致 當月中より可申請
奉申上候
　之後在之重長
　河北在之手嶋長
一 口
　口上御供之者共請取申候
一 山從高之より
　別勅定御仕度 致無之二之 出御合
一 請取 出度之 殊
　此分合申候
　長正

一 寛正年號 内々
内傳奏東坊城三人 大橋宰相 菅家
菅家難陳候条々書 還御所
被仰出也
後花園院御年 …年
叡慮之通也
一 条々
出座大監
前橋藩
鎌田三郎左衛門

一 二字年号 長正
御即位御昭用元正辰年
内々 新傳奏東坊城三人 菅家
之條々紀傳書之条々事還
内々年号
附記

一 綾小路大納言殿　御請
清水谷中納言殿　御請
橋本左京権大夫殿　御請
来六日御即位御参勤并御世話之
儀御執次御頼申候　右御使　青侍
一 御即位御用掛り
正親町三条殿　御使　山本修理
三条家青侍　喜蔵
御参役并御世話之儀如此候
御頼申入候

一 同前
右同断之家族御請被申上　使　花木舎人
一 橋本家　三條寺
三毛宇兵衛
一 参上
御殿之御頼之儀付御目見候
御頼申入候御承知候様
御頼申入候
一 御頼
吉田兵部少輔殿
一 二条殿　家司
出納大尉
山陵奉行　戸田大和守

一 参上 大宰大監 吉川陣而

一 天満宮 此度家来友田玄蕃
　如例内乳請ニ付ル

一 四ノ亀神鏡 人
　以酒肴之

廿六日 陰 夕小雨

一 御沙汰左之通

一 右當分之流来献方加勢被
　仰付事　奉書請書上
　　　宮崎大進
　　　岸　右京
　　　武田龍之丞

一 今度家来到被
　右加中奥席被

御附之事　但年分出入扶持之儀之事

八月　　　宮津藩醫師
　　　　　小林玄臺

一 金銀入之御附之事

一 吉野出入於妙法院殿見込
御出入所之第一金銀入之御附之三松三郎
同様之御付被仰付御沙汰頼置候事ニ候

一 年始進献
右者旅宿来ル御頼ニ付見之

一

一 穂宮御方巳之刻御出ニ而為御参
内御使者壱人ニ而友田右馬之助岸右京宮崎
北浜御勤役左衛門尉殿之御召ニ付
准之呈
御菊之還　御之　御酉刻
但明ケ七ツ　御即位府寒帳め玉
御参勤之儀御取扱之儀ハ之出入御入
賀所御出昇　殿之事

一 奉行所親町大納言殿御来状為御目見御礼ニ付
之間此節御来頼申来候儀候

一 午半刻御出ニ而為済来
朝供奉青士弐人宮隊左之通随身翔負
紀伊守ニ而御供等之 還
御再拝 御引敬、還 御之 明暁御参
朝之御都合ニ付為之

一 飛鳥人足 張出 岸 右京
奉行之謁之
御即位式ニ付当年申出候処後来之遠慮ニ

一 仁和寺宮
御即位之義ニ付御参 御使 木村大学

一 辨事役所今手持来
御即位ニ付参賀之事御祝儀未調ニ付上り之
三之 三之丞

一 来木九右 山陵行幸 三之 三之丞

一 高倉殿 贈参議正三位宗卿 三之丞
右持来即承御頼達

一 山階宮
明ヶ未伺待 御新地之局御彩中 御使 青木左膳

九七日　總参

一　今日　御即位之事

一　左侍従御案勤行自　御剣殿乃出門

寅刻　御行粧也

六口定省　先拂　走雑色　日

六口定省　走雑色　日

前駈今　日　日　束帯　前駈紀伊守長正

雑色　ロ　同　三木　陸奥守冬胤　同　ロ　同縫殿頭為紀朝臣

雑色　同

同　進後右番長　車副　山田静男

同　河北左番長　車副　中野求馬　御車代　衆丁八人

雨皮持
御沓
御執沓靴
右近衛 宮崎右近
御長柄
左近衛 岸内記
同 奥村式部
同 永野惣集女
雜色 隅野省吾
同 三松三郎
同 永嶌将監
同 杉織部
雜色 岸右京
同 武田次郎
同 武田七郎
下品雜色 同
白丁 手明
同、横山牧太
下品雜色 同
白丁 手明
手明

笠籠三荷 釣臺三荷 押
行列奉行
吉田帯刀
岡村小膳
御衣紋方
河瀬万吉郎
三上河内介

一万端無滞被為済未刻 御隠殿ニ還

一 御渡海之節御召艦之人 御對面被仰付
於表御祝酒御吏被下 為御会釈金
三百疋ツヽ前班每人ニ金弐百疋ツヽ番長每人
被下之

一 御召艦ニ上 御本殿還 御申刻
但シ尋常御供立之

一 御出迎當上並家来ヘ鉄砲壹挺宛茶屋
於法之宿ニおゐて 御内所ニ鉄砲屋敷
おゐて 楼門内借所使者之休所

御供 御新地出役所ニ而休息

一 今日之御次第後之記ス

一 穂宮御方自 御別殿正寅刻御出門ニ而
御参内 自賢所 供奉 青士三人
御昇殿
佐伯備之助 渡正嗣負 主水 左兵衛権大尉
各麻上下着用御對箱餘准之申刻還
御
但シ直御供備 未刻御迎

一 着

御ニ沙汰有之後ニ記之

同記

此方初而御参　朝ニ而御進献物等如左

禁中ヘ尾張焼御花池壱ツ　壱台　鮮鯛壱尾宛

大宮御所ヘ御交肴壱折　典侍殿初ヘ交肴壱折

三仲間女中ヘ御手拭料三百疋

賢所ヘ御鈴錯料金弐百疋　御供女嬬ヘ

御手拭料金百疋

右

今日御成ニ付典侍殿初ヘ折詰壱荷宛遣し

一 今日於禁中ニ而御手渡りヽ

御文庫之内　壱ツ

雛御人形大　一箱

内侍所ゟ

御人形　壱ツ

御手遊　壱ツ　一臺

緋鹿子　壱反

右御参役ニ付此方ニ而正五位下宣旨被蒙

仰口宣案如左

口宣案

上卿徳大寺大納言

慶應四年八月廿四日　宣旨

利子女王

宜叙正五位下

右中辨藤原資生奉

一　今日於

一　禁中奏者所ヘ　御使左兵衛権大尉

御太刀　一腰宛

女宮御方ゟ

女房奉書添

一 中務卿宮々御のまいらせ候よし御機嫌
よく成まいらせ候て目出度まいらせ候
永世めてたくおもひまいらせ候まゝよく
御長短おハしまし候へく候めてたさ
共ニまいらせ候て去年四月より御下向
ふし候ておもひまいらせ候て中納言殿
たのみ御機嫌よく御談合候て御年
まいらせ候祝ひ御心よりさせ候
御弥栄のほと頼ミまいらせ候よし御頼ミ
まいらせ候かしく
めてたくかしく

つほね 白まへの
御目もしまいらせ候

若宮御乳の男子

御返事 御乳人方 御返事中納言

一 大宮御所へ 御使 左兵衛権大尉
刑部 つまとりて

宮様 若宮様 山家君様

一

右　御即位ニ付進上之事

禁中

金　千疋　鳥飼

御結三足　一箱

御手郷

女房衆　一折

一　右は御常々のしるし事ニ候

御即位ニ常々より表向より献上の

ハ又いつくもしてきまりのある事ニ

祝ハのしるしに此金子三足ハ御結三足ハ御手郷

ハいつの物ハ御職掌としてみのしるしを

ハ億人共にもとめしのみを祝合也

包物ともハの事に此より入用

右御即位御表向御祝進上事

十八日　霽　　雅罘陝

一　大宮表於会所　鳥飼　植田光太郎
　　表書中　　ゟ
　　表机　　一冨
　　鍋　　一蓋
　右　穂宮様ゟ進ゝ伝取ニ差進
　ゝ半

一　山階宮　御使　落合大弐
　此度ゟ

一 禁中様ニ而献上ハ進上太刀目録折掛
ヘ進之御文台 彩三種之

一 筑後中将殿　使　中地兵庫
精宮様ヘ進之御手持参之事

一 因幡中将殿　使　河瀬万吉郎
書中　壱
御肴料金　千疋
銘酒　壱荷
右之段上京ニ付
御出去九日京着付進上之事

一 本庄宮内少輔　使　村瀬与三右衛門
先般上京中　右之節目六ツ過拝領物
仕右之御礼中ニ之事

一 宮御方年頭御祝詞ニ付参上
朝　大宮御所江も可成供奉青士
三人宮淵及遥拝勤仕　紀伊守家来
準之還　御両方之刻

一 依召参上
相模国足柄下郡
玉瀧坊
役僧
林泉坊

一
玉宝院
多宝院

右之般願ニ而御殿入来祈祷不仕
仰付置旨御達左之通相違許状文言
定宗等悟得之通依畏視手段於来手院
来月九日披露御僧三百疋礼仕
仰付早而於表来祝酒三種献上有之
被下之其後菓子等被下之相済候上御礼
申上右退出

一
次第人中段表右
於筆書記

一
参昇

一
長門宰相殿へ
尾張殿へ御使
樽 五荷宛
山田大宮司
御使 大橋主水

一 廿九日 霽 宿 雅楽頭

天智天皇

孝明天皇 御陵ハ御拝依

宮御方供奉為御先着

行幸

先山科ハ御参拝相済之中 於

青蓮院跡 御小休再御同室有

還幸 昼御食被為上而後 泉山ハ

御参拝 妙法院御休 輦 泉山

御参拝後ニ御廟再拝 同御室迄

寺ニ御 御床御休　輦毎ニ御先着
之仕候事　吉士三人山岸右京大橋主水宮膳
左近将曹勤仕候左衛門大尉各馬乗袴羽織
上下具足兼帯者宮内ニ而無甲ニ而ニ付候也
御ニ並　還　　御及御文

一　青侍書状内王　　御史　劉不治故白
　　康筆子　一冊
　　　中務大宮様
　　　山岸右衛門様
此帳康機嫌御伺之為ニ進ス事

一　雑遮司　諸式　會田一学
　　松分鎌倉白山神社神主冷泉和泉守
　　右者京鑑中出来

一　雑事当番鋼本持参

一　布令　出直

一　日誌　五十三　了
　　鎮台日誌　出ッ
　　大持参臣細分記

一　参上　　志来有

一 参上　玉瀧坊

一 今夜子情因ニ付　尾崎少輔
明日　法史　丹波上野介
行幸ニ付法安上ニ付法来の
上東門院殿御所労ニ付　内々法来ニ付為届
宮様ニ内々届之内来ニ後法来取御届被為
法来ニ者法中へ届之

一 夜ニ刻許路東白川村　先達御届

一 照高院殿、法史岸大原法花寺へ七
御入事

一 右ニ付候
聖護院宮御葬送ニ付　法中送使或は
其外執当二言接取ニ付法行外等之事

一 同日　深事之　法楼寺ニ法海所史来候

一　二十日　長正

一　辰年河東於操練場銃兵
天覧ニ付　行幸之事

一　非蔵人口　御使　出候　右之
右者両局ヨリ申来候ニ付　依御労
御断　被申上候事

一　右ニ付為御挨拶　千種少将

一　鷹司前右府殿　山田政之助

一　御封中達
差上置候処御返之旨申来

一　信州上田　松平伊賀守
参上
今度致出府之節殿ヘ被仰付
御所西御門焼失ニ付為御祝儀御労
為御尋者諸方ヘ御所向御守衛被仰付候
右御礼参上之旨申述
御届申来　差遣

ワ　味岡市市
ワ　西村彦掃
ワ　松尾角之丞
千賀十之右衛門

一 於三峯上分院之自元之悲院之業蒙
許候し事
右院號再興之願
一 華頂宮 御使 西村武緑
右其院號被 御染筆旨 御代香且
又葬式之節 御拝膳之事
一 清水谷殿 使 出羽殿[illegible]
中納言殿 侍從殿 子細在之 [illegible]
中將 被付 御願候 事
出雲路殿 [illegible] 玉瀧坊修僧

一 参上 可睡斎代 一雲斎
先達来願之 御染筆 御寄来之
其後 副使来候而左
護國殿 御裏書 御額字
右御願 中務卿 織仁親王
御染筆被成下候也
月日
藤木雅楽頭
小人 判
右之通
可睡斎

右御用中未達ニ而雖旨以哉
退散　右之趣被仰付候
上書経度
岩田精之丞
一
之承度

此の冊子ハ[illegible]雖有之候
返却[illegible]
[illegible]度

上[illegible]殿
岩田[illegible]

国立公文書館
National Archives of Japan